

# 「想実一致」の進路指導で 生徒の内発的動機を高め、 主体的な進路選択を実現する

## 旭川東高校(北海道・道立)

取材・文／笹原風花

旭川東高校では、どんなことに対しても妥協することなくベストを尽くそうとする精神を表した「シマレガパンレ」を学校標語(昭和8年制定)として掲げており、進路指導のねらいも「シマレガパンレの醸成」に定めている。また、自分がイメージする自己像「想」と現実の自己像「実」を進路実現の両輪と位置付け、「想実一致」(なりたい自分を実現する)を目指すことを進路指導のテーマに据えている。さらに、自らの進路をデザインするために必要な力を「広げ、深める」のが1年次、それを「伸ばし、強める」のが2年次、「自らの進路デザインを形にする」のが3年次と学年ごとに目標を定め、生徒にどのような

### 進路をデザインする力を付け、 なりたい自分を実現する

## 進路指導の課題とテーマ

創立117年の伝統校で、地域有数の進学校として知られ、旭川医科大学をはじめとした医学部や国公立大学の志願者も多い。以前は、多くの課題を課し、学力の高い生徒には偏差値の高い大学・学部を勧める指導が生徒を伸ばし、学習に積極的に向かい、がんばり切れる生徒が数多くいた。しかし、「生徒の気質が変化し、一生懸命に勉強して偏差値の高い大学に入る、ということに価値を見いだせず、それだけではがんばり切れない生徒が増えてきた。また、ミスマッチのために大学の学びについていけない卒業生の存在も課題だった」と、進路指導担当の花尻健明先生は言う。

こうした課題を解決するためには、具体的な進路選択をする高校2年の秋までに生徒の内発的動機をいかに高めるかが重要であると考え、2015年度に3つの取組をスタートさせた。興味のある課題について深く探究する「旭東アカデミア」、ロールモデルから生き方を学び、自らの未来を描く「学びのフローラ」、そして、大学のアドミッション・ポリシーを読み込み志望校選択につなげる「アドミッション・ポリシー研究」だ。自分がやりたいことや興味の方向性を発見し、それを学べる進学先を探し出し、なぜそこを目指すのかという理由を明らかにしたうえで、受験勉強に励む。内発的動機を重視した進路指導への移行で、生徒の姿にも変化が見えてきた。

意識をもたせ、どのようなテーマで何をやるか、どのような力を身に付けさせるのか、3年間の計画を作成している(図1)。この進路指導の軸となるのが、「旭東アカデミア」、「学びのフローラ」、「アドミッション・ポリシー研究」の3つの取組だ。

**「大いなる不完全燃焼」で  
学びへの動機や意欲を育む**

探究学習「旭東アカデミア」は、2015年度にスタートした当初は希望者のみの活動だったが、現在は総合的な探究の時間のなかで1、2年生全員が取り組んでいる。「なぜ学ぶのかを内省し、学びたいという動機や意欲をもって大学に進学してほしいという思いから始めた」と花尻先生は振り返る。1年次と2年次の後期に行っており、最初に「問題解決パラダ

### ○進路状況(2019年3月実績)

大学372人、  
専門学校19人、その他81人

大学進学者の約4割が国公立大学に進学している。かつては地元志向が強く道内の大学への進学者が多かったが、近年は全国へと広がりを見せている。

### ○School Data

1903年創立／普通科  
生徒数842人(男子424人・女子418人)

イムワーク」と「価値創造パラダイムワーク」という、いわば「探究の手法」を学ぶ講義を実施。その後、生徒は自らの興味にしたがってテーマを設定し、探究していく。テーマに縛りはなく、活動は個人でもグループでもよい。半年間かけて探究した成果は3月に発表する。過去には、「どんな教室であれば授業が楽しく受けられるか」をテーマに選び、探究する過程で大学での学びのヒントを得て、デザイン工学の分野に進んだ生徒もいるという。

旭東アカデミアの目標は、「大いなる不完全燃焼」。「完全燃焼して満足すると、そこで完結してしまう。もっとよつとやりたかったな、もっと知りたいなと



進路指導担当  
花尻健明先生

図1 3年間の進路指導計画(一部抜粋・再編)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ねらい	シマレ ガンバレの醸成 「自らの進路をデザインする」ために必要な力を広げ、深める!											
テーマ	新生活への適応・学習観及び学習スキルの転換			「想」の開発・学習観及び学習スキルの転換と確立				「想」の開発・学習観及び学習スキルの習得			「実」の開発・活用への転換準備	
主な行事 (進路関係)	学びのフロー											
				文理選択 オープンキャンパス参加		AP研究*		旭東アカデミア				
ねらい	シマレ ガンバレの熟成 「自らの進路をデザインする」ために必要な力を伸ばし、強める!											
テーマ	「実」の開発・活用への転換		「実」の開発・学習観及び学習スキルの活用力の向上・「想」の充実に向けて				「想」の充実・活用から受験実戦力へ			実戦力の定着を意識		
主な行事 (進路関係)	学びのフロー											
				3年次教科選択 オープンキャンパス参加		AP研究*		旭東アカデミア				
3年	ねらい シマレ ガンバレの体現 「自らの進路デザイン」を形にする!											

※AP研究=アドミッション・ポリシー研究

思うことで、その先も自分で学び続けていける」と花尻先生は言う。それゆえ、成果や出来栄ではなく、各生徒が何かしらの価値を見いだしていくことを目的にしている。「自分の興味のままに調べたり行動したり考えたりして突き詰めることで、経済的価値、社会的価値、学問的価値を見いだ

### 今の自分と大学での学び、社会との接点を見つける

生徒が進路を考える際に参考になる口ルモデルを示したい、という思いで始まっし、それを面白いと思う経験をしてほしい(花尻先生)というのが、先生たちの思いだ。

学びへの動機・意欲の育成や自分の未来像の具体化と並行して行っているのが、「アドミッション・ポリシー研究」を通じた具体的な志望校選択の指導だ。数年前までは、「地元に残りたいから旭川市内の大学、偏差値が高いから医学部…」といった理由で志望校選択をした結果、大学進学後にミスマッチで大学の学びについていけないことが課題となっていた(花尻先生)という。「生徒には、自分が大学でやりたいこと、大学の使命や受け入れ方針、求める学生像が合致しているか、言うなれば、大学の

### アドミッション・ポリシーを 読み解き、自分との接点から 進学先としての大学を選ぶ

のが、「学びのフロー」だ。生徒が現在の自分と大学での学びや社会との接点を見つける機会と位置付け、大学の教員や同校の卒業生、地域で活躍している人などと呼び、講演会や座談会、交流会といったかたちで、月に1回程度開催している(図2)。参加は希望制で、毎回30〜60人ほどが参加。この5年間で地域の人のつながりが広がり、今年度は学びのフローがぎっくかけで英語部と地域活性化協議会との合同プロジェクトが始動し、地元のレストランの英語メニュー表づくりに取り組んでいる。

また、夏休みには「学びのフロー」の道外ツアーも開催。企業で働く卒業生訪問、北海道外の高校との交流、東大のオープンキャンパス参加などを通して、視野を広げ、大学での学びや社会で働くことイメージを養う機会となっている。

図2 「学びのフロー」過去の講師・講演タイトル例

講師	講演タイトル
川堀真人さん(北海道大学大学院医学研究科脳神経外科分野特任講師・東高45期)	「脳は治る!〜神経疾患に対する再生医療の最新線〜」
加藤博文さん(北海道大学文学部、アイヌ・先住民研究センター教授)	「アイヌ民族の歴史遺産の魅力〜北海道と世界を繋ぐ〜」
加藤礼記さん(ヴォレアス北海道運営、不動産経営・東高64期)	「東京から地元旭川にUターン起業したわけ」
齊藤涼太郎さん(株式会社FLUMA・東高65期)	「人生をゲームに例えたときのルールの話」
應武菜里依さん(東高64期)	「世界一周中に 命のつぎに大切と言われるパスポートを盗まれた話」

夢に共感できるか、ということをしつかりと確認したうえで志望校を選んでほしい。そのためには、大学のアドミッション・ポリシー研究が不可欠と花尻先生は断言する。

同校のアドミッション・ポリシー研究は、1年次の10月と2年次の8月の2回にわたって総合的な探究の時間を使って行われる。2015年度に始まった当初から受け継がれてきたワークシートは、非常に完成度の高いものだ(ツール1)。1年次のゴールは、「アドミッション・ポリシーを読み込むことの重要性を理解し、自分の思いと重なる部分があるのかないのかを意識しながら、大学の教育理念を受け止めようとする素地を作ること」に据えている

